

5. 包括的リスク評価・管理 の実際

京都大学医学部附属病院臨床研究総合セン
ター早期臨床試験部 教授
横出 正之

[Summary]

今回改定された日本動脈硬化学会の動脈硬化性疾患予防ガイドライン2017年版では、2012年版に引き続き包括的なリスク評価とそれに基づく管理の重要性が明記された。これは動脈硬化性疾患が複数の要因で生じることが明らかになり、多元的アプローチが求められていることによる。これには、個々の患者のリスクを適切に評価し管理を目指すための実施手順が必要になる。そのため、今回のガイドラインでは新たなエビデンスを含めた包括的リスク評価・管理手順が示された。

Key Words :

脳心血管病予防 □ 動脈硬化性疾患 □ 包括的リスク評価 □
包括的リスク管理

はじめに

わが国の代表的な動脈硬化性疾患である脳血管病予防には複数のリスク評価と管理が必須となる^{1,2)}。今回改定された動脈硬化性疾患予防ガイドライン(以下ガイドラインと記載)2017年版³⁾においても、2015年4月に日本内科学会を中心に発表された統合的管理指針である「脳心血管病予防に関する包括的管理チャート」⁴⁾と同じく、その理念は生活習慣の改善を基盤にした、リスク因子(肥満, 血圧, 血糖, 血清脂質, 腎機能など)の包括的管理である。以下、その実際のあり方につき述べる。

1. 包括的リスク評価・管理の流れ

包括的リスク評価・管理の流れをStep 1からStep 6までの順に示す(図)。主に動脈硬化危険因子に関し「精査が必要」とされた初診受診者が主たる対象であるが、冠動脈疾患などの動脈硬化性疾患の既往を有する場合やすでに脂質異常症, 糖尿病, 高血圧などの治療や経過観察を受けている患者についても、定期的に本稿に従いリスクとその管理状況の再評価を経時的に行うべきである。

2. Step 1:スクリーニング

①Step 1は、スクリーニングの基本項目と追加項目から成る。